

# 高等学校 第1学年 「歴史総合」 単元学習指導計画

日 時：令和4年12月1日(木) 4時間目  
場 所：北海道〇〇高等学校 〇〇教室1  
対 象：1年4組38名(男子19名、女子19名)  
授業者：〇〇 〇〇

## 1. 単元名：「経済危機と第二次世界大戦」

## 2. 単元の指導目標

- ・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に読み取り、経済危機が各国や人々に与えた影響、ファシズムが台頭した背景や原因、日本の大陸進出による諸外国との関係性の変化などを基に、国際協調体制の動揺について理解することができる。
- ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に読み取り、第二次世界大戦がもつ複合的な性格と戦場の広域化や一般市民の甚大な犠牲や被害、戦後の平和に向けた国際秩序の形成、冷戦が各国に与えた影響、連合国による占領政策とその変化などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解することができる。
- ・経済危機の背景と影響、国際秩序や各国における政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、経済危機に対する各国の対応や国際協調体制が動揺した要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- ・第二次世界大戦勃発の背景とその展開、第二次世界大戦が各国や人々に与えた影響、戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦がもつ複合的な性格や「被害」と「加害」の側面が複雑に絡み合っていること、戦争がより多くの一般市民にとって身近なものとなり、甚大な被害と犠牲をもたらしたことが、こうした反省を踏まえた上で戦後の国際秩序や形成されたことなどを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- ・経済危機や第二次世界大戦、戦後の国際秩序の形成などに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組むとともに、自身の問いや現代的な諸課題と関連付けて追究したり、よりよい社会の実現を視野に、戦争や平和の在り方について自ら主体的に考えようとする態度を養う。

## 3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に読み取った上で、国際協調体制の動揺について理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などに関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に読み取った上で、第二次世界大戦後の国際秩序と国際社会への復帰について理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済危機の背景と影響、国際秩序や各国における政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、経済危機に対する各国の対応や国際協調体制が動揺した要因などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・第二次世界大戦勃発の背景とその展開、第二次世界大戦が各国や人々に与えた影響、戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦の複合的な性格や被害と加害の重層構造、一般市民への甚大な被害と犠牲、戦後の国際秩序の形成などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済危機や第二次世界大戦、戦後の国際秩序の形成などに関わる諸事象について、諸資料を活用したり、これまでの学習と結びつけたりしながら、主体的考察を深め、積極的に追究するとともに、見通しをもって課題に取り組もうとしている。</li> <li>・経済危機や第二次世界大戦、戦後の国際秩序の形成などに関わる諸事象を自身の問いや現代的な諸課題と関連付けて追究したり、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて、戦争や平和の在り方について主体的に考えようとしている。</li> </ul>

4. 単元の指導計画と評価計画(13 時間扱い) ○・・・「評定に用いる評価」、●・・・「学習改善につなげる評価」

時	学習内容・学習活動	知	思	態	評価基準等
第 一 次 （ 4 時 間 扱 い）	<b>単元を貫く問い</b> ：再び戦争の惨禍を起こさないために、私たちは戦争とどのように向き合い、平和についてどのように考える必要があるのだろうか？				
	<b>主 題</b> ：「経済危機と国際協調体制の動揺」 <b>小単元全体を貫く問い</b> ：第一次世界大戦後に国際協調体制が成立したにも関わらず、なぜ第二次世界大戦が勃発したのだろうか？				
	◇ 第 1 時：世界恐慌の発生と各国の対応				
	【問い】① 世界恐慌に対して、各国はどのような対応をしたのだろうか？ ② 世界恐慌は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか？				
	・世界恐慌に対する各国の対応について、諸資料に基づきながらその特徴や影響について理解する ・世界恐慌が発生した背景や原因、人々の生活に与えた影響などについて、諸資料をもとに複数の視点から考察し、自らの言葉で表現する	●		●	・世界恐慌に対する各国の対応の特徴について理解している ・世界恐慌の背景や原因、人々に与えた影響などを諸資料に基づいて考察し、適切に表現している
	◇ 第 2 時：ファシズム体制の広がり／ドイツのナチズム				
	【問い】なぜ、ドイツではファシズムが台頭したのだろうか？				
	・ナチス政権の誕生までの過程やナチス政権の特色などについて、諸資料に基づきながら、理解する ・ドイツにおいてファシズムが台頭した背景や理由について、諸資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現する	●		●	・ナチス政権誕生の過程やその特色について、資料をもとに理解している ・ファシズムが台頭した背景や理由について考察し、適切に表現している
	◇ 第 3 時：1930年代のヨーロッパ				
	【問い】① なぜ、ソ連の工業生産量は急速に増大したのだろうか？ ② 反ファシズム運動において、ソ連はどのような役割を果たしていたのだろうか？				
	・ソ連の計画経済による工業化を中心に触れながら、国内政治や経済の特徴や動きについて確認する ・ソ連の国際連盟加盟の背景について、ファシズム国家の動向や反ファシズムの気運の高まりなど着目しながら、諸資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現する ・スペイン内戦の対立構造や国際社会に与えた影響について、諸外国との関係性に着目しながら、理解する	●		●	・ソ連の政治体制や経済政策の特徴と工業化の過程について、理解している ・ソ連の反ファシズム運動における位置づけや役割について、資料をもとに考察し、表現している ・スペイン内戦の対立構造や影響について、理解している
	◇ 第 4 時：日本の恐慌と満州事変／日中戦争				
	【問い】① なぜ、日本国民は満洲への進出を支持したのだろうか？ ② なぜ、日中戦争は長期化することとなったのだろうか？				
	・満州事変が勃発した背景や原因について、世界恐慌の影響と日本国内の政治動向と関わらせながら、理解する ・満州事変や日本の国際連盟脱退に対する当時の日本の世論について、諸資料をもとに考察し、自らの言葉で表現する ・日中戦争勃発後の日本や中国の動向に着目し、日中戦争の長期化の背景や原因について、諸資料に基づき複数の視点から、理解する	●		●	・満州事変の背景や原因について、国際情勢などをもとにして理解している ・満州事変や国際連盟の脱退について、資料をもとに考察し、表現している ・日中戦争が長期化した背景や原因について、資料をもとに複数の視点から理解している

第 二 次 （ 9 時 間 扱 ）	<b>主 題</b> ：「第二次世界大戦の展開とその後の国際秩序の形成」 <b>小单元全体を貫く問い</b> ：二度の世界大戦を経験した人類は、どのような社会を目指そうとしたのだろうか？			
	◇ 第5時：ドイツの拡張政策			
	<b>【問い】① ミュンヘン会談は、どのような目的で開かれたのだろうか？</b> <b>② なぜ、独ソ不可侵条約は結ばれたのだろうか？</b>			
	・ミュンヘン会談の目的や内容について、諸資料に基づきながら、理解する ・独ソ不可侵条約が結ばれた背景や影響について、諸資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現する	●	●	・ミュンヘン会談の目的や内容について、資料をもとに理解している ・独ソ不可侵条約が結ばれた背景や影響について考察し、表現している
	◇ 第6時：開戦とドイツの攻勢／独ソ戦			
	<b>【問い】① 第二次世界大戦は、どのようにして始まったのだろうか？</b> <b>② 第二次世界大戦は、第一次世界大戦と比較してどのような特徴があるのだろうか？</b>			
	・第二次世界大戦の開戦とその展開について、ドイツの動きを中心に確認し、理解する ・第二次世界大戦の特徴を、諸資料をもとに第一次世界大戦と比較しながら考察し、自らの言葉で表現する	●	●	・第二次世界大戦の開戦と展開について、理解している ・第二次世界大戦の特徴について、諸資料に基づいて考察し、表現している
	◇ 第7時：日米交渉と太平洋戦争			
	<b>【問い】なぜ、日米関係は悪化したのだろうか？</b>			
	・日米交渉の流れや太平洋戦争の展開について、地図や年表を活用しながら確認する ・日米関係が悪化し、太平洋戦争の開戦に至った背景や原因について、諸資料をもとに考察し、自らの言葉で表現する	●	●	・日米関係の悪化や諸外国との提携強化について、理解している ・日米関係の悪化について、資料をもとに考察し、表現している
	◇ 第8時：ナチス＝ドイツ／日本の占領地支配			
	<b>【問い】戦争によって占領された地域の支配は、どのように行われていたのだろうか？</b>			
	・ナチス＝ドイツや日本の占領地の支配について、その被害に触れながら、諸資料に基づき理解する ・戦争における占領地の支配について、現代におけるつながりと諸資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現する	●	○	・占領地の支配における被害や人々の状況について、理解している ・占領地支配について考察し、現代とのつながりに触れつつ、表現している
	◇ 第9時：ファシズム諸国・日本の敗北			
	<b>【問い】第二次世界大戦は、どのようにして終結したのだろうか？</b>			
	・枢軸国が敗戦に至る経緯について、戦争の被害などに触れながら学習し、理解する ・第二次世界大戦終結に向けた連合国の戦争処理の会談について、諸資料に基づきながら理解する	●	●	・枢軸国の敗戦までの流れや各国の被害等について、理解している ・終戦に向けた諸会談の目的や内容について、理解している
	◇ 第10時：第二次世界大戦下の社会（BC級戦犯裁判）			
	<b>【問い】① なぜ、BC級戦争犯罪が起こり、戦犯として裁かれる人が生まれたのだろうか？</b> <b>② 戦争犯罪や戦犯を再び生み出さないためには、どのような仕組みや考え方が必要なのだろうか？</b>			
	・BC級戦争犯罪の事例やBC級戦犯裁判の判例を取り上げ、第二次世界大戦における加害と被害の重層構造や帝国主義国と植民地の関係性などについて、諸資料をもとに理解する ・第二次世界大戦における加害と被害の重層構造や戦争の「大衆化」、植民地問題などを諸資料に基づきながら考察し、自	●	●	・第二次世界大戦の性格や問題点について、BC戦犯裁判に関わる資料をもとに理解している ・第二次世界大戦の性格や問題点について、BC戦犯裁判に関わる資料、資料を

らの言葉で表現する ・戦争犯罪や戦犯を再び生み出さないために何が必要かという問いに対して、現代とのつながりや自分自身との関わりを踏まえつつ、自らの考えを表現する			○	もとに考察し、表現している ・よりよい社会の実現を視野に、現代とのつながりや自分自身との関わりを踏まえて、主体的に追究しようとしている
◇ 第 1 1 時：新たな国際秩序／米ソ対立の始まり				
【問い】① 戦後の国際秩序を形成する上で、国際連合はどのような役割を果たしたのだろうか？ ② 米ソ対立の始まりにより、世界ではどのような体制や機構が形成されたのだろうか？				
・国際連合設立の過程やその背景、ブレトン＝ウッズ国際経済体制が国際経済の安定に果たした役割、米ソ対立の始まりについて確認し、理解する ・戦後の国際秩序を形成する上で、国際連合が果たした役割について、学習したことや諸資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現する	●			・戦後の国際秩序の形成や米ソ対立の始まりについて、諸資料をもとに理解している ・国際連盟との比較や諸制度の特色について資料に基づきながら考察し、自らの言葉で表現している
◇ 第 1 2 時：占領下の日本と民主化				
【問い】GHQによる民主化政策は、日本にどのような変化をもたらしたのだろうか？				
・GHQによる日本の占領政策について、これまで学習した内容と結びつけながら考察し、自らの言葉で表現する ・GHQの占領政策の展開について、国際情勢の変化と関連付けながら理解する	●	●		・占領政策について、日本の社会的・経済的背景を踏まえて考察し、表現している ・占領政策について、資料をもとに理解している
◇ 第 1 3 時：中華人民共和国の成立／朝鮮戦争				
【問い】中華人民共和国の成立は、東アジアや関係する国々にどのような影響を与えたのだろうか？				
・中華人民共和国成立の過程について、年表などを用いながら理解する ・朝鮮戦争がGHQによる日本の占領政策にどのような影響を与えたかについて、資料をもとに考察し、自らの言葉で表現する	●		●	・中華人民共和国の成立過程について、理解している ・占領政策の転換や朝鮮戦争の背景などについて、資料をもとに考察し、表現している

## 5. 本時の指導目標（13時間のうち10時間目）

【主 題】：第二次世界大戦下の社会(BC級戦犯について)

【問 い】：① なぜ、BC級戦争犯罪が起こり、戦犯として裁かれる人が生まれたのだろうか？

② 戦争犯罪や戦犯を再び生み出さないためには、どのような仕組みや考え方が必要なのだろうか？

【本時の目標】

- (1) BC級戦争犯罪やBC級戦犯裁判の判例を取り上げ、日本軍による捕虜虐待などが行われたこと、裁判では下級兵士までもが極刑に処せられる場合があったこと、日本の統治下にあった地域の人々も戦犯として裁かれたことなどを、諸資料やデータをもとに確認し、第二次世界大戦における日本の戦争加害の問題、BC級戦犯裁判の持つ問題点、第二次世界大戦における帝国主義国と植民地の関係性などについて理解することができる。
- (2) BC級戦争犯罪やBC級戦犯裁判の判例を通して、第二次世界大戦における「被害」と「加害」の側面が複雑に絡み合っていること、戦争における残虐行為がごく普通の人々によって行われたことなどについて、諸資料に基づきながら多面的・多角的に考察し、自らの言葉でまとめたり説明したりすることができる。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、自分自身との関わりを踏まえて、BC級戦犯裁判が現代の社会に投げかけている課題を追究するとともに、戦争や平和の在り方について自ら主体的に考えようとする態度を養う。

## 6. 本時の展開過程

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点等
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校卒業生である平手嘉一さんについて</li> <li>→平手さんの生涯について紹介</li> <li>本時の授業内容を確認</li> <li>→BC級戦争犯罪やBC級戦犯裁判について資料に基づき考察する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北見市内高台寺の碑の写真を見る</li> <li>本校卒業生平手嘉一さんの経歴について</li> <li>→出自、在校中の様子、卒業後の進路などを紹介</li> <li>※平手さんは28歳で若くして亡くなる(発)なぜ、平手さんは若くして亡くなったのか?</li> <li>→BC級戦犯として絞首刑となったため</li> <li>※裁判における罪状と争点を確認</li> <li>※その後の助命嘆願運動について触れる</li> <li>本時に考察する「問い」を提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に身近な話題を用いながら説明する</li> </ul>
	【問い①】：なぜ、BC級戦争犯罪が起こり、戦犯として裁かれる人が生まれたのだろうか？		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習活動の流れを確認する</li> <li>※グループごとに机をつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が本時の流れをつかめるよう、簡潔に流れを説明する</li> </ul>
展開① (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>BC級戦争犯罪とBC級戦犯犯罪について</li> <li>→【問い①】について、資料をもとにグループごとに考察を深める</li> <li>討議内容の共有(全体)</li> <li>→グループごと発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【問い①】について、資料を活用してグループごとに考察する</li> <li>※あらかじめ配布した資料プリントを使用</li> <li>※グループごとに使用する資料が異なる</li> <li>1・2・3班：日本軍の捕虜虐待に関する資料</li> <li>4・5・6班：上官の命令と戦争犯罪に関わる資料</li> <li>7・8・9班：朝鮮人BC級戦犯に関する資料</li> <li>ワークシートに班の意見・考えをまとめる</li> <li>→意見集約用紙に記入し、全体で共有する</li> <li>グループごとにまとめた内容を発表する</li> <li>→代表者が資料に基づいて発表、内容を共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導を行い、グループワークの円滑な進行に努める</li> <li>意見集約用の板書(または集約用紙)を用意する</li> <li>しっかりと聴く姿勢を作らせる</li> </ul>
展開② (15分)	【問い②】：戦争犯罪や戦犯を再び生み出さないためには、どのような仕組みや考え方が必要なのだろうか？		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシア・ウクライナ双方の捕虜虐待について</li> <li>BC級戦犯裁判の教訓</li> <li>→戦争犯罪や戦犯を生み出さないために何が必要かを考える(個人作業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※机をもとの体形に戻す</li> <li>現在の紛争における戦争犯罪について</li> <li>→新聞記事を紹介し、今日の学習内容が現代にもつながる問題であることを確認する</li> <li>【問い②】について、グループ活動などをもとに個人で考察し、自分の考えをまとめる</li> <li>→ワークシートに自分の意見・考えを記入</li> <li>記入内容について数名の生徒が発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的・多角的な視点からさまざまな意見・考えが出せる点を強調する</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> <li>歴史を捉える視点について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BC級戦犯裁判から何を学ぶことができたかについて確認する</li> <li>→BC級戦犯裁判からは、第二次世界大戦における加害・被害の重層構造、戦争の大衆化、植民地問題などを見出すことができる</li> <li>歴史の見方・考え方について考える</li> <li>→諸資料に基づき、様々な視点から考えるとともに、現代の諸課題とつなげることが重要である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒から出された意見・考えを用いて説明するよう心掛ける</li> </ul>

## 7. 予想される生徒の反応

### 【展開①】：BC 級戦争犯罪や BC 級戦犯裁判に関する資料の読み取り

#### ○1・2・3 班…日本軍の捕虜虐待に関する資料

- ・日本軍は国際法で禁止されている捕虜に対する残虐行為や虐待を行っていた。
- ・国際法によれば、戦争中の捕虜は人道的に待遇しなければならず、虐待などを行ってはならない。
- ・「戦陣訓」の「生きて虜囚の辱めを受けず」という教えが、捕虜を人道的に扱うという国際法よりも重んじられていたのではないだろうか。
- ・日本と欧米では、捕虜に対する考え方が異なっていることがわかる。
- ・捕虜に対する虐待は、BC 級戦犯裁判において厳しく裁かれていることがわかる。
- ・BC 級戦犯裁判では、招集されて兵となった下級兵士も裁かれていることがわかる。

#### ○4・5・6 班…上官の命令と戦争犯罪に関わる資料

- ・年次の新しい軍人は、上司からの指示命令が絶対実行しなければならない義務となっている。
- ・上官の命令が絶対的であるため、自分の良心に反してまで罪を犯した者もいるが。そうした中には、死刑宣告をされた者もいた。
- ・上官の命令は絶対とされていたにもかかわらず、BC 級戦犯裁判で実際に裁かれたのは、現場にいた者が多い。
- ・捕虜に対する残虐行為や虐待は、上官の命令によって行われることもあったが、BC 級戦犯裁判においては命令による行為も裁かれる場合があった。

#### ○7・8・9 班…朝鮮人 BC 級戦犯に関する資料

- ・日本が植民地支配していた朝鮮や台湾の人々も、BC 級戦犯として裁かれている。中には死刑になった人もいる。
- ・朝鮮人や台湾人の中で、捕虜監視員として働かされていた人の中には、自分との境遇を重ね、ヨーロッパ人に対して自ら暴力を振るう者もいた。
- ・こうした人たちが捕虜虐待という加害者になった背景には、帝国主義による支配・被支配の関係性に関係しているのではないか。

### 【展開②】：「BC 級戦犯を再び生み出さないためには、どのような仕組みや考え方が必要なのだろうか？」という問いの考察

- ・国家間の紛争や戦争における個人の犯罪行為を扱う裁判所などを設置する(⇒国際刑事裁判所<ICC>)。
- ・国家として、人権を守るための法や枠組みに積極的に参画していく。
- ・私たちが国際社会における法やきまりを正しく理解する。こうした知識を多くの人に教育していく。
- ・何事に対しても、一個人として責任を持った行動を心掛ける。他人に言われたから行動するのではなく、自分で考え、判断し、行動する。
- ・戦時中の事実や教訓をしっかりと学び、適切に理解すること。また、それらを継承していくこと。
- ・人種的・民族的偏見をなくしていくこと。お互いの文化や習慣、価値観を理解しようと努める。
- ・そもそも、戦争や紛争を引き起こさない。そのために、何ができるかを考えていく。

## 8. 参考文献等

小川幸司・成田龍一編『世界史の考え方』岩波書店、2022 年 3 月。

大須賀・M・ウィリアム『ある日系二世が見た BC 級戦犯の裁判』草思社、1991 年 11 月。

内海愛子『朝鮮人 BC 級戦犯の記録』勁草書房、1982 年 11 月。

立川京一「旧軍における捕虜の取扱い」（『防衛研究所紀要』第 10 巻第 1 号、2007 年 9 月）。

田村重見『友 その生と死の証し』1986 年 6 月。

林博史『BC 級戦犯裁判』岩波書店、2005 年 6 月。

林博史「加害と被害の重層構造」（『立命館平和研究』第 17 号、2016 年 3 月）。